

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定 実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①自己肯定感を高める学習活動と教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を実現するための教育課程編成に取り組む。</p> <p>②「わかった・つながってきた」を生徒が実感できる評価・授業の在り方の再整備を進める。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びの視点から、学びに向かう力の育成につながる授業を実現すべく検討し、共有する。</p> <p>②学校目標で掲げられている資質・能力について学校全体での実践を進める。</p> <p>・ICTを活用した授業実践について共有を図る。</p> <p>③新たな教育課程の編成と実践に向けた取組を行う。</p>	<p>①学びに向かう力・姿勢の見取り方について各教科内で共有するとともに授業研究会を実施し、全体会で発表する。</p> <p>②自己肯定感の向上や学びに向かう力等の具体的な要素とそれらを見取る手立てへの理解を深め、各教科で実践していく。</p> <p>・ICT器機の活用事例について研修会等を通して研究・実践する。</p> <p>③新学習指導要領へ対応すべく、学校設定科目の設置に向けた検討を行う。</p>	<p>①学びに向かう力・姿勢の育成と見取り方について教員の理解が深まったか。</p> <p>・学習に向かうことができない生徒への指導・支援の方策を共有し、評価につなげられたか。</p> <p>②学校目標で掲げられている資質・能力につながる視点を持った授業を共有できたか。</p> <p>・ICT器機の活用によりすべての教員がICTを活用した授業を行ったか。</p> <p>③新学習指導要領に対応した新たな教育課程の編成ができたか。</p>	<p>①授業見学の期間を設け、自教科・他教科の実践を見ながら学びに向かう姿勢等の見取り方について共有することができた。</p> <p>②自己肯定感や学びに向かう力等を見取る手立てについて、ICT器機の研修・実践により効果的な手法を共有することができた。</p> <p>③移行期における学校設定科目の方向性を示し、新学習指導要領に対応した科目の編成ができた。</p>	<p>①学びに向かう姿勢等をどのように評価に反映させていくか、という点について、研修等を通してさらなる理解を深める。</p> <p>②資質・能力の育成につながる授業づくりについての視点が不十分だった。</p> <p>・ICT器機を活用した授業の振り返りをすべての教員が実践することができた。</p> <p>③学校設定科目の運用方法や評価方法について、学校全体としての方針を共有する。</p>	<p>○ 学びに向かう姿勢等の見取り、評価は難しい問題だが、高校に先んじて新学習指導要領が実施されている中学校などと、校種を超えて連携していかれるとよいと思う。</p> <p>○ 学び直しのための学校設定科目については、学校の努力が感じられる。</p>		
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①生徒の規範意識を定着させ、社会の一員としての自覚と自己有用感を涵養する。</p> <p>②「かかわる・寄り添う・見守る」教育支援体制により、生徒が自己の課題に気づき、その解決に向けて行動(相談)する力を育む。</p> <p>③学校行事や部活動等を通して、生徒の豊かな人間関係を構築する力を育む。</p>	<p>①規則やルールを守ることの重要性を伝え、自選択が正しい行動を育てる。</p> <p>②生徒が自己の課題解決の適切な行動を選択できるよう支援する。</p> <p>③生徒主体の学習環境を整える。</p>	<p>①生徒の状況やニーズに応じた集会や講演会を実施する。</p> <p>②相談しやすい体制を整え、生徒に周知するとともに、情報共有を充実させる。</p> <p>③行事の運営にあたり生徒の自主的な活動を促し、教職員が効果的な方法で連携を図る。</p>	<p>①問題行動を20%減少できたか。</p> <p>②課題のある生徒・保護者からの相談割合が高まったか。</p> <p>・不登校生徒が10%程度減少できたか。</p> <p>③生徒会執行部やフロンティアチームが主体的に協力を果たしたか。</p>	<p>①講演会の大半をオンラインを利用して実施した。問題行動件数は33%減少した。</p> <p>②生徒、保護者からの相談件数は30%増加した。</p> <p>・不登校生徒への組織的対応を行った。</p> <p>③学校行事の縮小はあったものの、委員会が運営に係り主体的に活動することができた。授業と連携し、校歌を手話に変えるなど新しい試みも実現できた。</p>	<p>①在籍している生徒が年々変容しており、問題行動の内容にも変化がある。それに対応した講演会の実施を検討する必要がある。</p> <p>②生徒が自らの課題に気づくために、全生徒に向けた対応を検討する必要がある。</p> <p>③さまざまな状況の生徒がおり、その働きかけが大切となる。居場所作りや交流の場を模索し、多くの生徒の参加を促していく必要がある。</p>	<p>○ 問題行動への取り組みが成果をあげていることが、数字とってはつきり表れている。33%減は大きい。</p> <p>○ 相談件数の増加は、悩みの多さの表れとも言えようが、それだけ生徒・保護者が学校を信頼してくれていることでもあろう。</p> <p>○ 在県外国人等特別募集枠が設けられたが、多様な環境にある生徒に学ぶ機会を提供することも、定時制の役割の一つだと思う。</p> <p>○ 1年次の生徒の部活動加入率が高いことは好ましい。今後も活動を維持してほしい。</p> <p>○ 学校には生徒の居場所、交流の場としての役割も期待されている。</p>		

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(月日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			④部活動やボランティア活動を生徒が積極的に進めるよう広報活動を推進する。	④活動環境に合わせた内容を模索し、充実した活動が持続できるよう支援する。	④入部率が25%程度に増やすことができたか。	④部活動入部率24%、昨年とほぼ同じであった。制約の多い中で、四つの運動部が全国大会に出場、「かながわ部活スポーツ賞」を受賞した。文化部も総合文化祭で「教育長賞」を受賞するなどよく活躍した。	④1年次の加入率は34%であり、次年度への定着が図れるよう指導していきたい。体育館改修を踏まえ外部施設の利用や教職員のかかわり方について検討していく必要がある。		
3 進路指導・支援	○社会生活実践力を育成し、主体的に進路設計ができる力を身につけさせる。	①生徒が主体的に将来を考え、個々の能力、関心、適性に合った進路実現を支援する取り組みを進める。 ②社会へつながる生徒を増やすためにキャリア教育実践プログラムの見直しを行う。	①外部の機関等も活用することで、他者理解を深め、自己の勤労観、職業観を具体的に想像できるよう取り組みを行う。 ・生徒一人ひとりの進路希望の実現のため、「総合的な探究の時間」、教科「職業」等の充実を図る。 ②入学初年度の生徒に対応するキャリア教育実践プログラムに関する研究会を開催する。	①説明会や講演会などを適切な時期にふさわしい内容で実施できたか。 ・非正規雇用希望者はいないか。また、進路実績は就職、進学ともに希望者の90%を達成できたか。 ②キャリア教育の実践プログラムの検証結果を「進路の手引き」に反映させることができたか。	①新型コロナウイルスにおける制約が続く中、就職、進学対応の説明会を計画実施できた。 ・就職活動については活動の長期化と内定の減少が見られた。 ・昨年度に引き続き、就職希望者のうち非正規雇用はいなかった。 ②「進路の手引き」にキャリア実践プログラムの検証を反映させた。	①「総合的な探究の時間」と「職業」との有機的な連関を図りつつ、勤労観や職業観をより具体的に育成できるようにする。 ②「基礎力診断テスト」の活用法を見直し、キャリア教育の中での位置づけをより確かなものとする。	○多様化している生徒の進路希望に対して、学校はよく対応してくれている。		
4 地域等との協働	①地域や外部の諸機関等との連携を図り、地域とともに学びあう教育活動・学校運営を行う。 ②教科指導等における連携・協働を積極的に推進し、生徒の成長の見守りと学校に対する理解と信頼を深める。	①新型コロナウイルス感染予防の対策を図った上での地域との連携について検討し、地域とつながる教育活動に取り組む。 ②外部の諸団体と連携を図り、特別活動や特別活動の充実を図る。	①生徒の教育活動が地域の方々に具体的にわかるようHP等で情報発信を行う。 ②地域や外部機関の人材を活用した学習活動を展開することにより生徒の成長を促す。	①生徒の教育活動についてHP等で紹介する機会を増やすことで、地域の方々に本校の教育について理解を得られたか。 ②外部の諸団体との連携を図ることができたか。	①HPで4科目の授業について紹介した。また、生活体験発表大会の報告について掲載した。 ②港南区の聴覚障害者協会、社会福祉協議会、商店会の方等を講師にお招きした授業を実施した。	①部活動、委員会活動、行事等の活動についてもHPに掲載していく。 ②授業以外の教育活動についても、外部の諸団体や地域の方々との連携を図っていきたい。	○コロナ禍で地域との協働は難しくなっているが、HP等を活用した情報発信は重要だ。 ○夏祭りや子ども食堂、めいほう先生など、コロナ禍で地域との交流の機会が失われてしまったことが残念だ。そうした中でも学校がさまざまな取り組みをしていくことに敬意を表したい。地域として協力できることがあればぜひ声をかけてほしい。		

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(月日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5 学校管理 学校運営	<p>①生徒の安全と教育環境を確保し、耐震工事への対応と新校舎の効果的な使用方法を策定する。</p> <p>②地域と協働した防災体制づくりと防災教育を推進する。</p> <p>③事故不祥事防止を推進し、学校に対する信頼を深める。</p> <p>④教員のワークライフバランスを推進するときに生徒と向き合う時間を確保するため組織的な学校運営と校務の効率化を図る。</p>	<p>①ICT機器をはじめとした施設設備を有効に活用し、快適で安全な学習環境を整備する。</p> <p>②地域の防災拠点と連携した訓練を実施し、生徒の防災意識の向上を図る。</p> <p>③事故不祥事防止に向けて啓発活動を推進する。</p> <p>④Teamsを積極的に活用し、校務の情報共有と効率化を図る。</p> <p>・長期休業期間中の学校閉庁日を5日設定する</p>	<p>①生徒の学習効果を上げるためにICT機器をはじめとした設備品を効果的に配置する。</p> <p>②地域と協働した学校防災計画を策定し、計画的に防災避難訓練等を実施する。</p> <p>③対生徒・対職員のSNS活用等に関する事故防止研修を実施する。</p> <p>④掲示板やチャットなどの機能を利用して情報を共有化し、会議時間の節約など、校務を効率化する。</p> <p>・長期休業期間中に設定される研修等の日程調整を行い、休暇を取得しやすい環境をつくる。</p>	<p>①ICT機器をはじめとした施設設備を効果的に配置し、生徒の学習効果が上がったか。</p> <p>②計画的に防災避難訓練等と協働した学校防災体制づくりができたか。</p> <p>③計画的に研修を実施し、事故不祥事防止に係る生徒・職員の意識が高められたか。</p> <p>④情報の共有化を進めることにより、会議時間の節約など、校務を効率化できたか。</p> <p>・夏季休暇取得を促進できたか。</p>	<p>①生徒の学習効果を上げるための設備品については効果的な配置ができた。授業での利用率も高い。</p> <p>②新型コロナウイルス感染拡大の影響により、防災訓練は限定的な形で実施にとどまった。</p> <p>③計画に従って事故不祥事防止の研修会を実施した。</p> <p>④掲示板やチャットなどの機能を利用した情報の共有化は進めることができたが、会議時間の節約等、校務の効率化にはあまり結びつかなかった。</p>	<p>①1人1台端末の活用が始まることから、設備をさらに充実させ、視聴覚器機を全教室に常備したい。</p> <p>②地域と協働した防災訓練は2年間実施できていない。生徒のボランティア意識を高めるためにも来年度は是非実施したい。</p> <p>③研修会の形骸化を防ぐ意味からもテーマ設定や実施形態などには工夫を重ねたい。</p> <p>④引き続きTeamsの利活用について周知を図り、校務の効率化を進めたい。また、ペーパーレス化にも取り組んでいきたい。</p>	<p>○ ICT機器の活用事例などは中学校などとも情報を共有し、研究が進むとよいと思う。</p> <p>○ SNSのトラブルなど、事故防止のための教員研修は重要だ。</p>		